

ヨーロッパの地域・少数言語の事例—フランスのサヴォワ語を中心に—

佐野 彩（慶應義塾大学研究員、地球ことば村）

本報告ではヨーロッパの地域・少数言語の再活性化の具体的事例として、フランスのサヴォワ地方の地域語であるサヴォワ語の事例を紹介したい。

サヴォワ地方とサヴォワ語

サヴォワ地方は、フランス南東部のイタリア、スイスと国境を接する地域である。現在のフランスの行政区画では、オート・サヴォワ県、サヴォワ県の二つに分かれてローヌ・アルプ地域圏の一部を成している。地理的には山の多い地域である。

サヴォワ地方がフランスに併合されたのは、1860年のことである。この地域は11世紀以来、サヴォイア家の支配下に置かれており、歴史的独自性が強い。地域主義運動が行われており、フランスからの独立をめざす運動もある。

サヴォワ語は、サヴォワ地方で話されているフランコプロヴァンス語の諸方言の総称である。フランコプロヴァンス語はガロ・ロマンス語の一つであり、その言語圏は国境を越えてイタリア、スイスの一部に広がっている。



サヴォワ地方では16世紀からサヴォワ語とともにフランス語が併用されてきた。フランス語がラテン語に代わる裁判、行政の言語となり、また教会の言語となったのに対して、サヴォワ語は日常生活の言語として用いられていた。しかし19世紀末以降、初等教育が普及し、学校でのサヴォワ語の使用が禁止された。家庭でも子どもの将来のために子どもにはフランス語で話すようになり、子どもの第1言語がフランス語になる。第二次世界大戦後になると、話者数は著しく減少し、サヴォワ語が話されなくなった。

2005年に現地調査を行ったオート・サヴォワ県アヌシー近郊の農村部では、サヴォワ語を話すことができるのは概ね80代以上の人、サヴォワ語を聞いて理解することができるのは概ね60代以上の人であった。現在のサヴォワ語の話者数は不明である。フランコプロヴァンス語全体の話者数については、UNESCOが2009年に発表した「世界危機言語地図」(<http://www.unesco.org/culture/ich/index.php?pg=00206>)によると10万人であり、「確定的な危機状態 (definitely endangered)」という評価であった。

*参考 Tuailon, Gaston (1988) « Le franco-provençal : Langue oubliée », in Geneviève Vermes dir., *Vingt-cinq communautés linguistiques de la France*, t.1, Paris : L'Harmattan, pp.188-207.

サヴォワ語の言語維持活動

サヴォワ語の深刻な状況に対する危機感から、サヴォワ語を記録・保存し、未来の世代に継承しようとする活動が1980年前後より徐々に進展しつつある。

サヴォワ語は公的なサポートをほとんど受けていない。国民教育省には地域語として認められておらず、他のフランスの地域語のように大学入学資格試験（バカロレア）の選択試験科目にはなっていない。バイリンガル教育を行う学校もない。サヴォワ語の教育は課外活動のなかで行われているのが現状である。また、行政や司法の公的機関では用いられておらず、標識などの二言語表記も行われていない。「地域・少数言語欧州憲章」に関連する報告書（Cerquiglini, Bernard dir. (2003) *Les langues de France*, Paris : Presses Universitaires de France として出版）では、フランコプロヴァンス語としてフランスの地域語の一つに挙げられているが、フランスは1999年に憲章に調印したものの、批准には至っていない。

サヴォワ語の言語維持活動は民間レベルで推進されている。サヴォワ語団体や個人が、主に自分たちの暮らす村や町のサヴォワ語に関する調査や研究を行っており、語彙やことわざの収集、辞書の編纂、文法の研究、翻訳、出版などが進められている。またサヴォワ語団体による催しや、演劇、歌などの文化活動も行われている。



中心的な役割を担っていると考えられる団体には以下の3つがある。

- サヴォワ文化センター（Centre de la culture savoyarde）：コンフランとも呼ばれる団体で1979年に設立された。サヴォワ地方の言語・文化の調査、研究、振興を行っている。コンフラン書記法を制定し、サヴォワ語で書かれた作品のコンクールを開催、入選作を出版している。村や町によって異なるサヴォワ語の調査も推進している。
- サヴォワ語（サヴォワのフランコプロヴァンス語）研究所（Institut de la langue savoyarde : le francoprovençal de Savoie）：サヴォワ語の保存、地位向上、普及を目的に2004年に設立された。サヴォワ文化センターが文化全般を扱うのに対し、言語が活動の中心に置かれている。
- ル・ルビオロンーサヴォワ語関連団体連合（Lou Rbiolon - Fédération des groupes de langue savoyarde）：サヴォワ語団体や劇団などサヴォワ語関連の文化団体の連合で、1990年に結成された。“Lou Rbiolon”はサヴォワ語で「芽」の意味である。

また、年に一度フランコプロヴァンス語圏の国際フェスティバルが開催され、フランス、イタリア、スイスのフランコプロヴァンス語圏の人びとの交流の機会となっている。

サヴォワ語に対する人びとの言語意識と言語維持活動に携わる人の声

サヴォワ語の言語維持活動に携わる人は、どのような思いから活動に取り組んでいるのだろうか。

サヴォワ地方の人びとはサヴォワ語に対して、「田舎の低俗なことば」、「恥」、「文法のない言語未満のことば」といった否定的な言語意識を抱く一方で、肯定的な言語意識を持っている。サヴォワ語は「先祖から受け継いだ遺産」、「ルーツ」、「誇り」として高い価値を持っており、伝統的な暮らしと結びついた言語として愛着も持たれている。また、2005年



の現地調査で実施したある集落の住民に対するアンケート調査では、サヴォワ語は「サヴォワ地方の文化の重要な構成要素であるか」という質問に37人中27人(73%)が、「未来の世代に継承されるべきであるか」という質問に37人中29人(78%)が肯定的な回答をした。

では、言語維持活動に携わる人の活動の動機について、現地調査で行ったインタビュー調査から具体的な声を紹介したい。

「パトワ(注:サヴォワ語)はルーツであり、サヴォワの歴史、遺産の一部である(...)サヴォワはフランス、ヨーロッパ、そして世界の一部であり、それぞれの地域の違いを認めながら共存していくことを望んでいる。」

「サヴォワ語ができることは先祖が我々に残してくれた遺産を守るためにとても重要である。サヴォワ語が消えつつある今、サヴォワ語を守ろうとする努力は大切である。サヴォワ語が話されなくなることは残念である。」

「パトワはルーツであり、アイデンティティである。」

「先祖が残した伝統を守り、若者に伝えていくことは大事である。」

「年配の人がパトワを話すのを聞くと昔のことを思い出し、昔に戻りたくなる。」

しかし、活動によってできることはサヴォワ語の保存、良くて現状維持であり、日常生活のなかで用いられていた元の状態に戻すことは難しく、非現実的であるというのが多くの関係者の考えであった。

「パトワは徐々に消滅し、大学のなかだけで扱われるようになるだろう。活動はパトワを蘇らせるものであるというよりも、パトワを維持するために行われている。パトワができる人たちが亡くなったら消えてしまうのである。しかしパトワは地域フランス語のなかに残されるだろう。」

「パトワは死んでいくものであり、元の状態に戻すことはユートピア的である。しかしパトワを話さなくなっても、辞書などを編纂することによって残すことはできる。」

最近の動きとまとめ

インターネットで見える限りにおいては、ここ数年でサヴォワ語やフランコプロヴァンス語に関する情報が格段に増え、国境を越えた連携も含めて言語維持活動が活性化してきているように思われる。

国民教育省にサヴォワ語をフランスの地域語として認知させることは依然としてサヴォワ語の活動の大きな課題であるが、2009年には実現こそしなかったものの2人の高校生がバカロレアの選択試験科目にサヴォワ語を加えるよう申請するなど、新たな動きも見られた。

また、地域フランス語に入って知らず知らずのうちに使われているサヴォワ語の語彙・表現を題材にした漫画やフランコプロヴァンス語で書かれた漫画が複数出版され、一定の注目を集めているようである。ことばへの“気づき”やサヴォワ語への関心を高めるといふ点から、その影響は決して小さいものではないのではないだろうか。

サヴォワ地方は、サヴォワ語、フランス語、移住者の言語、外国語など、複数の言語が用いられている多言語社会である。多言語社会に生きる人間にとって『欧州言語共通参照枠(CEFR)』で言われる複言語・複文化能力を身につけることは重要である。サヴォワ地方の諸言語の一つであるサヴォワ語もその“ことばの学び”の中に位置づけら



れるのではないだろうか。サヴォワ語はサヴォワ地方の 人びとの重層的で複合的な言語・文化的アイデンティティの一つの構成要素である。ただ、「役に立たないサヴォワ語より使える外国語」という声は現地調査でもしばしば聞かれ、アイデンティティ面以外でのサヴォワ語を身につけるインセンティブが重要になるのではないかと考えている。